



忘れてはならない・戦争の記憶

この大戦における戦死者（死亡者）は310万人と言われている。そしてその9割が最後の1年間で死んでいったことを忘れてはならない。それはなぜなのか？

◆1944年11月

マリアナ諸島から東京へのB29による空襲始まる

◆1945年1月

アメリカ軍、ルソン島上陸
日本軍守備隊全滅

◆1945年2月

アメリカ軍、硫黄島上陸
◆1945年3月

日本軍硫黄島守備隊全滅
◆1945年3月10日

東京大空襲

東京の下町が全滅。死者約10万人
◆1945年3月12日、19日

名古屋大空襲

死者1・300人以上
◆1945年3月13日

大阪大空襲・死者3・987人

◆1945年3月17日

神戸空襲・死者2・500人以上
◆1945年3月19日

米軍空母機動部隊による広島・呉軍港空襲
死者2000人を超す
◆1945年3月

米軍、マニラ占領
◆1945年3月

沖繩戦始まる・連合軍、沖繩に侵攻
◆1945年4月12日

福島・郡山空襲
勤労働員の若者など死者400人以上
◆1945年4月15日

◆1945年5月5日

神奈川・川崎空襲・死者およそ1000人
◆1945年5月5日

広島・呉空襲・防空壕で500人死亡
◆1945年5月

独、無条件降伏
◆1945年5月29日

横浜大空襲
死者8,000人から1万人
◆1945年6月10日

茨城・日立空襲・死者およそ1,200人
◆1945年6月17日

鹿児島空襲・
死者3,300人以上

◆1945年6月18日

浜松空襲
死者1,717人
◆1945年6月19日

福岡大空襲
死者約1,000人
◆1945年6月19日

静岡大空襲・死者1,952人
◆1945年6月22日

広島・呉空襲・死者およそ1,600人
◆1945年6月23日

沖繩での組織的戦闘が終わる
民間人死者9万4000人
長崎・佐世保大空襲

死者およそ1,300人
岡山空襲

死者1,737人
◆1945年7月1日

熊本大空襲・死者およそ500人
◆1945年7月4日

高松大空襲・死者1359人
徳島大空襲・死者およそ1000人

千葉大空襲・1679人
甲府大空襲・死者1027人

和歌山大空襲・死者およそ1100人
◆1945年7月10日

大阪・堺大空襲・死者1860人
◆1945年7月12日

仙台大空襲死者1000人
宇都宮大空襲・死者628名

◆1945年7月12日

（次号12月号に続く）

気づいたこと・感じたこと

衆議院選挙を終えて
運動の視点に

高齢者問題を取り上げる

老人福祉法が制定された1963年には100歳以上の高齢者は全国で153人であった。そして今年の「敬老の日」に厚生労働省が発表をした100歳以上の高齢者が過去最多の9万5119人であった。昨年から2980人増えたことになっている。そのうち女性が8万3958人と88.3%を占め、男性は1万1161人であり最高齢は兵庫県芦屋市の116歳女性である。(毎日新聞・9月17日)

まさに日本は「人生100年」と言われる長寿国に入ったわけだが100年間をずっと幸せに生きることは必ずしも容易ではない。特に長生きをすればするほどさまざまな困難が待ち受けている。老いれば身体は弱り、能力は低下し社会的にも経済的にも不遇になりがちで、病気の心配、介護の心配が付きまとう。

そして今般、石破内閣の誕生。「あつという間の裏金解散」となった。そしてその結果は自民党大敗、立憲民主党の前進ということになった。しかしこの間の選挙のたびに心を痛める課題がある。そこであらためて1989年7月に実施をされた第15回参議院選を振り返ってみよう。その時勝ち取った社会党の「全国比例得票は1500万票、議席は20、得票率は26.4%であった。そして年が明けた1990年1月第39回衆議院選挙においては選挙区1600万票、得票率24.4%、

136議席の獲得であった。「山が動いた」という土井党首の勝利宣言を記憶している。しかし、この間の選挙のたびに頭を痛めるのは「政党要件の確保」に見られる低得票である。

そこであらためて考えてみたい。

社会党から「社民党」への変更が原因と述べる方もいる。しかし社民党が働く労働者と、その退職者の支持を軸にした政党であることは変わりない。また社民党の分裂がその原因であるとしても、分裂以前の支持の実態をみてもそれは当たらない。ではどこに視点をあてればよいのだろうか。その一つでありしかも大きな視点としなければならぬことに「高齢化社会」がある。つまり「党(党員)の運動」がその視点に立てられないところにあると見るが、いかがだろうか。「OB・Gニュース・2024年5月号」を改めて開いてみた。

(社民党福島県連合のホームページに掲載) マスコミによる世論調査による社民党の年代別支持率がある。(2022年7月・TBS)。それを見ると10代、20代は1.4%。40代以降は上昇し70歳以上が2%となっている。しかも日本の有権者の投票率を支えているのが高齢者であり、そこにおいての2%は何を意味しているのだろうか。

2000年代に社民党を応援する全国的な動きとなった「高齢者運動」がある。いわゆる職場の退職者が中心となった社民党を励ます「がんばれOB・Gの会」である。福島も「福島県の会」が結成し、社会保障問題など高齢者問題が取り上げられた。しかし会員の高齢化と共に、今や全国的にも運動は休眠、あるいは消滅といった状況にあるにもかかわらず高齢者問題はますます深刻化している。社民党の立て直しが「高齢者運動」と結び付けられないだろうか。

確定申告の時期にいわゆる「自民党の裏金問題」が暴露された。そのことが指定税務署に「紙申告」をする高齢者の怒りと結びついた。加えて高齢者の医療、介護を抑制するための負担増が提起された。その高齢者の怒りに、まず「社民党(党員)」が結集しなければならぬのではないかと。そのことへの討論と団結を改めて提起をしたい。(文責・降矢)

能登豪雨・押し寄せる水

「ふるさとが消えた」もうふんばれない

2011年3月11日、1000年に一度、世界史上第4位と言われる恐ろしい大災害が発生をした。いわゆる東日本大災害である。震度7という大地震、そして大津波。福島県相馬地区では3メートル、その勢いは陸上を這いあがること40メートルに達し高台に逃げても流されたという事実が語られている。加えて稼働されていた東京電力福島原発の1号機から3号機が爆発し破壊された。その事故により発散をした放射能による被ばく。最も恐れていたことが現実なものとなった。避難者は福島県の中央部を指して一時は15万名の大移動であった。しかも「現場の火は消せない。消す方法も知らない」という最悪の事態である。かく言う私も災害地から60キロ離れた郡山市で生活をしてきた。立っていられない強震に家から飛び出し道路にへばりこんだ。家屋の損害はもちろん、阿武隈山系を超えてくる放射能への恐れにも陥った。やがて続々と避難者が集まり市内の施設や、ホテル、旅館が満杯となった。その一つである「ビックパレット」には2300人が、床の上に一枚の段ボール、そして毛布が一枚。真冬並みの寒さであった。おむすび二つを四

人で分け合う家族。私は被災3日後から避難者の苦痛と混乱、その実態をメールで全国の仲間へ発信を続けた。

今般、元日に日本海に面した能登地方を最大震度7の地震と津波が襲った。その被害を受けた能登の皆さんがようやく立ち直ろうとした矢先に、今度は過去に経験したことのない大雨に襲われた。

9月28日の産経新聞の報道を見る。その見出しは「残るか去るか」と書き、揺らぐ被災者の心境を報じている。大地震と大豪雨、2度にわたる災害に苦悩する被災者の実態である。

降り続いた雨は激しさを増し、石川県輪島市沿岸部の南志見(なしみ)地区では、南志見川などが氾濫、10軒以上の家が流された。ライフラインは再び寸断され孤立をした。激流によって流された土砂や大量の流木を見るにつけ、これでは家屋はもろろんのこと、逃げきれなかった村人、とりわけ子供や高齢者の報道には胸が痛くなる。

そして「地震が起きてから今まで我慢や辛抱を重ね、何とか元に戻りたいと頑張続けたもんが、一気になくなった」と肩を落とす被災者の想いが報告されている。

それでもライフラインの復活や家屋の修復。そして仮設住宅の建設など復旧のための支援は続けられるであろう。しかし「いつまで続くかわからない個々の生活の保障」は確立されない。そこに「もうここでは生活ができません」「生まれも育ちもここやし、この地域が大好きだ。地震の時は頑張ろうとしたがもうだめだ。見捨てるわけじゃないけど、ここでも生活できんから出る」と。「行きたくなえけど、すまん。ありがとう」と言葉を残して去っていく人々にこれからの生活保障はない。貯えがあるとしてもそれは無限ではない。

若者はまだ「体が張れる」。しかし高齢者はどうなるのか。新しい地域にあつて「生活保護法による最低の保障」はあつても、医療や介護はどうなるのか。

今、「国の存立、国民の生命と自由、及び幸福追求の権利が脅かされている」という「有事法制」により、「日米安全保障の充実」、そして軍事費の増大が図られている。

しかし地震王国に加え、異常気象下における風水害により、今も今後も「国の存立、国民の生命と自由、及び幸福追求の権利が脅かされている」ことは重要である。東日本大震災しかり、熊本地震、そして今般の能登大地震と大水害による「国民の生活安全保障(災害安保)をないがしで良いはずはない。

今こそ、社民党はそのことを大きな課題として取り上げ、抜本的な解決に向けた取り組みをしなければならぬと思う。(事務局)

報告・提言のひろば



■気温の変化が乱高下です。夜寒くなり薄いかけ布団を追加してしまいました。気候温暖化の影響と思われる極端な天候が多くなり来年も同じようになるようなTVニュースを聞いています。新聞ではA-の需要に合わせて、データセンターの設置、そして電力を多く使うデータセンターに合わせて発電所の増設が必要とか。便利、使いたいとの欲求に合わせてますます電力が必要になり、結果として温暖化を進めると感じています。また、バス車内で多くの人がスマホ相手、都心の

鉄道ではほとんどの人がスマホを見ています。世界の紛争では人が数字で語られています。一人ひとりの人生が単なる数字で終わるのは悲しいです。どこかの総裁選ではあれやる、これやると言っていますが、今までの政権政党なら、今頃言わないでなぜやっていないの?と疑問符だらけ。国民のためではなく、自分たちのために政治をしているように思えます。

■酷暑を越えて少し涼しくなりました。愚かな戦争を再び繰り返さない為に、政府、資本家達の脅しに負けないように歴史を学ぶことが大事ですね。歴史修正に誤魔化されないように仲間との学習を高める努力したいと思えます。

■暫く続いた雨もようやく一段落しました。そして今度は急な秋の気配と、気候の変動に中々ついて行くのが大変です。能登地方は1月の地震の被害を受けてまだ大変なのに今般の大雨による被害。地元住民の気持ち察すると言葉も有りません。テレビのインタビュに何人かの人が「心が折れました」と語っています。それが本音です。避難所までも被害がおよび「心が折れる」。言いようがありません。政局もいよいよこれからが大変です。「立憲民主」も新代表に野田さんが選出され、自民が一番手強いと言わせる方の様です。自民も新しい総裁が選出されました。手負いの自民に一泡吹かせるチャンスだと思えます。私事ですが明日は「市民検診」が入っています。どんな結果がでるやら、普段の不健康(お酒)の影響は如何に。

■戦争の記憶、想いが溢れていて頷きながら拝読。福田須磨子さんの詩は声に出して読みたくなります。原爆を落とした米国に謝罪すら求め

ないで暫時協力する国があらましようか。怒りに心も身も震えます。

■日本政府は、2022年12月に安保三文書を改訂し、中国を「最大の脅威」と書き込みました。2023年度から5年間で、43兆円もの軍事費を計上し、「敵基地攻撃能力」を持ち、沖縄・九州にミサイル基地を配備し、全国約300の自衛隊基地に弾薬庫をつくらうとしています。また、実戦さながらの日米統合ミサイル発射演習を頻繁に実施しています。それどころか、米軍指揮の下「自由の航行作戦」という名の軍事作戦を繰り返して、2023年には中国軍との間で180件ものニアミスを起こしています。いつ集団的自衛権を行使することになるかもしれない危険な状態にあります。日本政府・自衛隊は米軍の指揮下で中国と戦争しようとしているのです。「台湾有事」の大宣伝を跳ね返し、日中平和友好条約を締結している中国との経済、文化交流を活発化し、日中友好の平和外交をこそ進めなければならぬと思います。自民党憲法改正実現本部は9月2日に全体会議を開き、9条への自衛隊明記および「緊急政令」改憲方針を決定しました。9条への自衛隊明記の最大の狙いは、中国との戦争に国民を総動員するためです。「緊急政令」改憲は政令で敵基地攻撃を可能にするためです。臨時国会中に憲法改悪の動きが大きく進む可能性もあります。私は立憲野党と協力しながら何としても改憲を阻止したいと思います。

■今、会津は米の収穫、稲刈りで忙しくしています。私も農民の一人として、田んぼの共同作業をし、Y君と稲刈り作業をしています。主にコンバイン作業はY君が、そして私は軽トラにつけた糶コンテナでの運搬作業です。乾燥が仕上がると

糶摺り作業です。これは二人で行っています。今年米不足で、米の値段が上昇しました。農家にとつてはやつとこの価格になり、再生産できる状態との認識です。この米不足の一番の原因は、担い手がいないと事と指摘されています。その通りです。「剣を打ち直して鎌とし、槍を打ち直して鎌とする」この思想に立つ、政治が求められていると痛感しています。

■総選挙は10月27日投・開票となりました。私も神奈川県連合では15区の佐々木克己さんの選対、南関東ブロックの比例選対とも立ち上げ、街宣行動などを開始しています。党員の減少・高齢化で選挙区のポスター貼りやチラシ配布もなかなか大変ですが、何とか力を結集して佐々木克己さん(比例区にも重複立候補)の当選を勝ち取りたいと思っております。

■能登半島の複合災害とも言える今回の豪雨被害に気持ちがついていきません。防衛費増ではなく、防災減災対策が最優先です。今回のことは、日本のどこでも起こりうることです。

■石破自民党総裁が誕生しました。マスコミは当分の間新総裁と新内閣の報道でしょう。また、立憲も野田代表となり、自・公政権打倒に向けた選挙態勢の取り組みについての報道が続くものと予想されます。そして10月末の総選挙に向けて、政権与党がどういう政策と選挙態勢を作るのか、また、立憲を中心とした野党が政権獲得に向けてどのような方針を示すのか、そして野党共闘がどうなるのか、国民世論も考えながらそれぞれ対策を打ち出すものと思われます。問題なのは社民党の低支持率です。それが心配です。衆議院選挙で得票を伸ばすためにどのような取

り組みをするのか、また、社民党としての具体的政策と方針を示し全国各地で、最大限の取り組みをするために臨時大会でも開き広くアピールすることも必要なのではないでしょうか。このままでは本当に何もしないうちに終わってしまいはないか心配です。全国各地でもそうした心配をする党员や支持者が多くいるのではないかと思っています。

■昨日、パレスチナの虐殺をやめろ!という渋谷のデモに参加してきました。私は高齢の部類で、主催者、スタッフ、参加者など90%以上は若い人たちでした。脱原発の裁判や集会などは若い人が少なくシルバー会の様相を呈していて、年々、活動できる人が減っていますが、それらとは全く違う雰囲気でした。コールもテンポ良く半分ほどは英語で高齢の耳にはついていけない状態でした。コールの内容もネットで、スマホで見てくださいとのことでした。こうして若い人は上の世代とは違つた自分たちの動き方を作っていくのだからなと感じるデモでした。雨の中1200名ほどの参加だつたようですが、世界でも多くの声があがっています。しかし日本政府は1年経つても米国に付度して沈黙状態ですし、国連など国際的な枠組みが機能していない中、ますます凄惨になるガザの状況に歯がゆさや無力感を感じるなか、「政府は動け!」「沈黙する政府はいらない!」「若者たちの声が響いていました。能登の状況をTVニュースなどで見るにつけ言葉を無くします。

カンパ協力ありがとうございました。
今般合計1万5000円のカンパがありました。
ありがとうございました。